

乙 第 号

岸本 直子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第	号	氏名	岸本 直子
論文審査担当者	委員長		教授	嶋 緑倫
	委員		教授	飯田 順三
	委員		教授	岸本 年史
	(指導教員)			

主論文

Distinctive Rorschach profiles of young adults with schizophrenia and autism spectrum disorder

青年期の統合失調症と自閉スペクトラム症のロールシャッハ・テスト反応の相違

Naoko Kishimoto, Kazuhiko Yamamuro, Junzo Iida, Toyosaku Ota,

Syohei Tanaka, Masanori Kyo, Sohei Kimoto, Toshifumi

Kishimoto

Neuropsychiatric Disease and Treatment

第12巻 2403-2410頁

2016年9月発行

論文審査の要旨

近年、成人の発達障害の概念が知られるようになり、青年期以降に精神科を受診するケースが増加している。訴えの中心が発達障害の症状ではなく、被害念慮や幻聴様の体験を訴える場合があることから統合失調症との鑑別が問題となる。しかしながら、自閉スペクトラム症の診断には幼少期の生育歴聴取が重要になるが、成人の場合には詳細な生育歴の聴取が困難であり、統合失調症と自閉スペクトラム症を正確に鑑別することは難しいのが現状である。ロールシャッハ・テストは精神科臨床で広く用いられている投影法による心理検査の1つであり、無意識下での思考障害の有無について調べることができる。そこで、本研究は統合失調症と自閉スペクトラム症のロールシャッハ・テストの反応に相違に着目し、両者の鑑別診断の一助となるとの仮説のもとに実施された。対象は、奈良県立医科大学附属病院精神科およびきょうこころのクリニックを受診し、研究の参加に同意を得られた平均 26.05 ± 4.73 歳の統合失調症群 20 名と、性別、知能指数を一致させた平均 26.20 ± 4.73 歳の自閉スペクトラム症群 20 名であった。対象者全例に包括システムに準拠してロールシャッハ・テストを施行され、クラスター別にロールシャッハ変数の比較を行われた。結果、統合失調症群は自閉スペクトラム症群と比較して、D スコア、AdjD、DQo および FQ- が有意に高く、active および DQ+ が有意に低いことが明らかになった。これは自閉スペクトラム症群は統合失調症群に比べて、ストレス耐性が弱く、情報処理能力が高く、他者への関心が強く、認知機能が高いなどの心理特性を有することを示唆した。本研究はロールシャッハ・テストが両群の鑑別指標となることを示唆しており、臨床上きわめて有用である。さらに病態解明にもつながるきわめて学術的価値の高い研究と考えられる。今後の更なる研究によりロールシャッハ・テストを用いた両群の鑑別ための指標の作成が期待される。

参 考 論 文

1. Differential patterns of blood oxygenation in the prefrontal cortex between patients with methamphetamine-induced psychosis and schizophrenia.

Kazuhiko Yamamuro, Manabu Makinodan, Sohei Kimoto, Naoko Kishimoto, Tsubasa Morimoto, Michihiro Toritsuka, Yoshihiro Takebayashi, Tomoyo Takata, Makoto Takahashi, Yoshinobu Tanimura, Yosuke Nishihata, Yasuhiro Matsuda, Toyosaku Ota, Hiroki Yoshino, Junzo Iida, Toshifumi Kishimoto
Scientific Reports. 5:12107, 2016

2. Lower prefrontal activity in adults with obsessive-compulsive disorder as measured by near-infrared spectroscopy.

Koji Okada, Toyosaku Ota, Junzo Iida, Naoko Kishimoto, Toshifumi Kishimoto
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 3(43):7-13, 2013

3. Comparison of pervasive developmental disorder and schizophrenia by the Japanese version of the National Adults Reading Test.

Toyosaku Ota, Junzo Iida, Masayuki Sawada, Yuko Suehiro, Naoko Kishimoto, Shohei Tanaka, Kiyoyuki Nagauchi, Yoko Nakanishi, Kazuhiko Yamamuro, Hideki Negoro, Hidemi Iwasaka, Miyuki Sadamatsu, Toshifumi Kishimoto
Int J Psychiatry Clin Pract. 17(1):10-5, 2013

4. At Risk Mental State におけるロールシャッハ・テストの特徴—2 事例による考察—

岸本直子、山室和彦、飯田順三、太田豊作、中西葉子、盛本翼、岸本年史

日本サイコセラピー学会雑誌 16(1):93-101, 2015

5. アスペルガー症候群の青年の自己意識—文章完成法を中心に—

岸本直子、根来秀樹、澤田将幸、紀本創兵、太田豊作、定松美幸、飯田順三、岸本年史

青年心理学研究 24(1):5-14, 2012

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 11 月 8 日

学位審査委員長

発達・成育医学

教授 嶋緑倫

学位審査委員

精神医学行動神経科学

教授 飯田順三

学位審査委員（指導教員）

精神医学行動科学

教授 岸本年史